

陽気だより

養徳社

検索

No6

2007.9.15

創刊号から

「陽気」は、昭和24年5月の創刊、平成21年に60年を迎えます。その足跡の一端を、昔の記事から振り返っていきます。

創刊号には「人物紙芝居」というタイトルで、活躍している人が紹介されているので、転載します。

人物紙芝居

諸井慶五郎

宗教家に親分肌も可笑しいが、彼は一見、強そうに見える。いながら、親分肌ではない。むしろ一面、すこぶる几帳面な性格を持っている。明窓浄机の嫌な奴もなかるうが、机の上の埃が気になり、昨日の

片隅に備えつけてある。それだけに仕事に陰日向があつたり、ずぼらさのある奴は、諸井総長の下では、他によほど優れたところでもない限り、生涯うかばれないだろう。勤勉型の人間にありがちな小心翼翼さはさすがに見えないが、大教団をになう初代教務総長としての一大信念を断行するだけの腹が出来ているかどうかは今後に待つ。：



しかし昨年天理教総務総長として、BK（大阪放送局）から全国中継放送をしたことがあるが、マイクから流れ出る堂々たる声音と、眼に見えるような

気魄とは、名実ともに大教団の教務総長としての貫禄が見えて、今もまだ筆者の耳底に残っている。……

（中澤隼人筆）

明治二十一年生まれと言うから本年六十二歳、大正六年出の法学士であり、天理女学校長、同中学校長、華北伝道庁長及東京教務支庁長から復興部長を経て、本部員中、中山家は別格として、上原義彦と共に光っている彼が、全国より選出された九十名の全教議員の総意によって、初代教務総長の椅子に押されることになったのは、結局落ち着くところに落ち着いた感がある。

灰皿の掃除してないのが不快に感じるほうだ。こころみに総長の自宅の私室にいつてみると、小さな諸道具が、いつもきまつたところを整然と置かれ、四角い手焙りの四隅をかこんだ客座蒲団が曲っていたことがない。風呂にはいつてみても、布で張った水垢取りから、熱湯をかきまわす棒まで、用意して

諸井慶五郎（もろいけいごろう・明治二十一年〜昭和五十年・89歳）
山名大教会三代会長・大正十五年に本部員

創刊号

社中ユーモア日記より

月日

編集室に貼り出された創刊号の目次を前にして、うるさいことうるさいこと。

「ウム、これなら売れる。返本なしだ。この漫画色頁がいい」「四十円ならやすい。ええと、五人家族がみんな読んで、一人八円やな」とさっそく職業意識できたのが、販売の大橋秀治と会計の上田次郎。

「藤澤先生の小説は恋愛物かね」「そりゃ恋愛物にきまつてるよ。恋愛のない小説なんか、アホらしくて」「そうさ、ゲテだつてドストエフスキイだつて、恋愛物ばかりやからな」とさかんに論じ合っているのが、目下恋愛失調の独身組、大西孝晴、高田明、上田嘉俊の面

面。「この雑誌は新カナ常用漢字でなくちゃあかん」とひとり力んでいるのは校正の達人、鴨居五郎。「別冊付録はないの?」と彼女にきかれたときを考えながら、小牧昌實。

「くだらない別冊付録なんかつけないよ。つけるんだつたら意義のある陽気らしいものでなくちゃ」と編集長みたいな口をきくのが吉岡武雄。(当時の他のメンバー)社長・東井三代次、専務・上田理太郎、青山うた、庄野誠一、松井浩生、森忠巳、安藤直正、小高敏郎の面々)

本席様のはなし

神殿に参拝される本席様は、
「チヨン鬘」を頭にのせ、大
概は着流しで紋付の羽織だけ
を召しておられたという。

歩く姿は文字通り、飄々乎
という形容詞がぴったり。ふ
らふらと空気の中を身軽に泳
いでも来るように、何もの
にも囚われぬ自由自在の身
のこなしに、何か常人と異な
ったものを誰にでも感じさせ
ていた。

また極めてひょうきんな方
で、面白いことを言ってお人
をよく笑わせておられた。本
当に気軽な方だった。

おさしづがある、神様が下
られるというので、ややもす
るとはたから神様扱いされる
中、本席様は決してそれに惑
わされるようなことは微塵も
なかった。——神の取次ぎと
しての理と、人間飯降として
の理との立て分けを厳然とし
てお持ちで……—と、今村
英太郎氏は、『おちば今昔ば
なし』の中で語っている。



天理の昔ばなし

布留の名（「てんりの昔ばなし」より）

昔、布留川の上流から、一
振りの剣が美しい水の流れと
ともに、泳ぐように流れてき
ました。剣は流れながら、触
れるものをつぎつぎに二つに
切っていききました。

そのとき、川の下流では、
一人の娘が洗濯をしていまし
た。娘がふと頭を上げて川上
を見ると、岩や木を切りなが
ら流れてくる剣が目につきま
した。すばやく避けようとし
た瞬間、洗いすすがれた白い
布中に剣が流れ込んだのです。
あわや布が切れたかと思いま
したが、そのまま剣は布の中
にびたりと留まっているでは
ありませんか。

こんなに鋭い剣が、布も切
らずにその中に留まったこと
への驚きは言いようもありま
せん。娘はその不思議さにつ
くづく感心し、「これはただ
ごとではない、神様のされる
ことだ」と、さっそくその見
事な剣を社に奉納しました。
そして、剣が布に留まった所
というところから、布留とい
う地名ができたということだ

◎インフォメーション◎

8月20日に名著復刊!!

松田武信著（旭園分教会会前会
長）『歩いただけが道』を装丁
も新たに復刊しました。静岡、
東京、大阪、そして四国松山
へと、おしどり夫婦が歩んだ
汗と涙の単独布教記録です。



（B6判・定価1,365円 送料200円）

8月25日に発売!!

「陽気」読者講演会」『うつ
病の早期発見・早期治療のコ
ツ』（菅原圭悟・憩の家精神科
経科元部長）の講演CDを発
売中です。身近な人の「サイ
ン」を見逃さず、「早期治療
を勧めることはおたすけへの
一歩です。ぜひ参考に。」

（定価1,260円 送料150円）



10月25日「講演会」開催

「陽気」読者講演会も9回目
を迎えました。10月25日午後
2時から、おやさとかかた南
右第2棟「陽気ホール」にて。
「聴こえますか？ 若者の心
の声」と題して、スクールカ
ウンセララーの古市俊郎氏（福
之泉分教会会長）に、講演して
いただきます。ぜひ、お誘い
合わせてご来場ください。開
場は30分前です。

11月26日 発行予定!!

植田與志夫氏 待望の著書

『さあ、これからや—信心は
意気と熱』と題して、植田與
志夫氏の本を出版準備中です。
『陽気』に掲載他、数々の話
が収められています。何度読
んでも胸震え、血が湧く話。
まっさきに生原稿に触れら
れる編集者冥利に感謝しなが
ら、ただいま、校正中です。
何と養徳社発行千冊目の本。
まさに、さあ、これから！

ちなみに、講演会CDは好
評発売中です。

※ご購入は、おちばの各書店
でお求めくださるか、直接当
社へご注文ください

☎0743・62・4503

養徳社 よもやま話

★愛犬家Kさん、飼犬ミミちゃ
んが右足骨折。動物病院へ運ん
だが、レントゲン写真を見た
たん貧血を起こして卒倒。獣医
から「大丈夫ですか」と心配さ
れたとか。どちらが患者なの？
★Yさん。ある夜、ちよっと飲
みすぎて自転車ごと転倒。大事
にはならなかったが、自分で呼
んだ救急車で運ばれた奈良市内
の病院で、女の看護師に「お払
いを受けられたら」と言われ、
齢四十一歳、更に傷が深まった
とのこと。

広告を載せませんか

ようぼくの企業や会社の
広告を『陽気』誌へ載せて
みませんか？ 掲載料金は、
広告の大きさによって異な
ります。

料金は、記事中で一回二
万円から。

詳しくは 養徳社広告係
まで

☎0743・62・4503

この「陽気だより」を各支部例
会などの折、広く養徳社からの
お知らせとしてご利用くださ
いますよう、お願い申し上げます。
養徳社